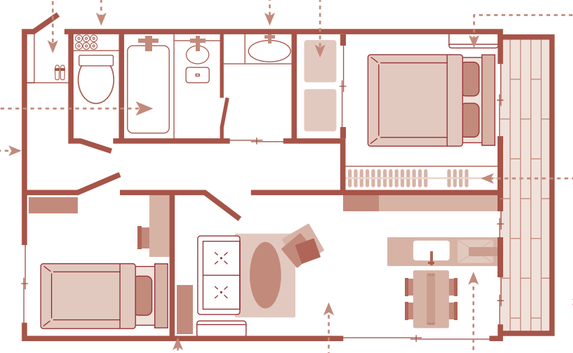
カビが好きな場所はココ！

カビ対策には、換気とホコリを取り除くことが大切。換気がおろそかになりがちな下駄箱やクローゼット、押し入れ、タンスの裏、キッチンのシンク下なども要注意。



玄関

湿気がこもりやすい。１日履いた靴は、多量の汗を含むため、そのまま下駄箱に入れると、中はジメジメに。靴は汚れを落とし、乾燥させてから収納しよう。

トイレ

常に水があるため、湿気がこもりやすい。飛び散った汚れや、便器の結露をカビが好む。

洗面所

洗面や洗濯で湿気が発生。バスルームからも湿気が流れ込む。洗面台や鏡が結露しやすい。

押し入れ

人は、毎晩約コップ１杯の汗をかくといわれる。汗を含んだ布団をすぐにしまわない。収納量は控えめにし、壁に物が接触しないようにする。

バスルーム

日常的に水蒸気が大量発生して湿度が上がりやすい。石けんかすはカビの栄養源となるので注意が必要。タオルは浴室内に置きっぱなしにしない。スポンジは水気を切っておく。

エアコン

内部に湿気がこもり、カビのもとになる。冷房時にとくに注意が必要。フィルターの掃除はこまめに

クローゼット

風通しが悪い。湿度が上がり、結露しやすい。

北・北西側の壁

日当たりが悪い北側や北西側の壁は、ほかよりも表面温度が低くなるため、結露しやすい。

家具の裏側

掃除が行き届きにくく、空気の流れも悪い。家具の陰で、壁の表面温度がほかよりも低くなるため結露しやすい。

床

じゅうたんは、ハウスダストを除去しにくいため、カビの栄養源になりやすい。とくに、畳の上に敷物を敷くのは、要注意。

キッチン

調理で水蒸気が発生する。調理中や食器洗い中は換気扇を回し、終了後もしばらく回しておく。レンジ下や、冷蔵庫の中もカビが繁殖しやすい。

お家のカビの繁殖を防ごう！

カビ対策の基本は、①室内の湿度を下げる②結露を防止する③栄養となる汚れをためないこと。天気のいい日は、なるべく窓を開けて、おうち全体に風を通しましょう。

① 家全体の換気を徹底しよう

天気のいい日は、できるだけ窓を開け、ふすまや扉も開け放って、家全体に風を通そう。とくに、共働き世帯では、調理や洗濯、入浴で発生する水蒸気が室内に閉じ込められ、湿度が高いままになりがち。換気を心がけ、24時間換気システムがある場合は、止めずに継続運転を。

② 梅雨時はエアコンや除湿機を活用

梅雨時は、屋外の湿度が高いため、換気は逆効果になる。エアコンや除湿機を活用して除湿しよう。エアコンは、部屋を冷やすとともに湿気を除去し、カビが繁殖しにくい環境を作る。ただし、エアコンの内部はカビが繁殖しやすいため、フィルターはこまめな掃除が必要。

③ バスルームの湿気対策を徹底

入浴後は、浴室内の汚れを洗い流し、水分を拭き取る。T字型の掃除道具・スクイージーも水滴を取るのに便利。換気扇は最低３時間以上回して水蒸気を排出。窓のない浴室は、入浴中から翌朝まで換気扇を回すと、湿度を大幅に下げられる。浴室小物はときどき天日干しを。

④ キッチンを使うときは換気を

鍋や炊飯器、食洗機からは、相当量の水蒸気が発生する。換気扇は、調理時のにおいや煙はもちろん、水蒸気も排出するため、調理中や食器洗い中も換気扇を回し続け、使い終わったあともしばらく回しておくといい。扇風機を回し、室外へ向けた空気の流れを作るのもおすすめ。

⑤ 収納や家具の裏に空気の通り道を

押し入れにはすのこを敷き、収納量は控えめに。物が壁に接触しないようにして、空気の循環を妨げないよう工夫する。ウォークインクローゼットの収納棚には、風通しのいいワイヤーシェルフがおすすめ。家具は壁から５㎝ほど離し、家具の裏側にも空気が流れるようにする。

⑥ 窓ガラスの結露はこまめに拭き取る

二重サッシにしたり、雨戸を閉めたりすることで、室内側の温度低下が防げ、結露の予防になる。カーテンの内側には湿気がたまりやすいので、毎日カーテンを開け閉めし、窓ガラスとカーテンの生地を乾かすようにする。窓ガラスの結露はこまめに拭き取り、くもったら換気を。

⑦ 洗濯物はなるべく部屋に干さない

５kgの洗濯物を干すと、完全に乾くまでに３kgの水蒸気が放出される。部屋に干さなければならない場合は、換気扇や除湿機を活用する。においのもとは細菌だが、カビと同じく、扇風機を回して早く乾かすといい。お風呂乾燥の設備があれば、室内に湿気が回らず、一石二鳥。

⑧ こまめに掃除し、汚れをためない

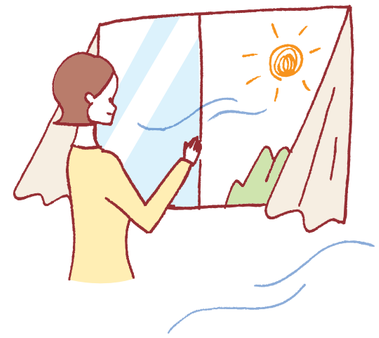
汚れをため込む前に、日ごろから軽い掃除を習慣づけることが大切。掃除をするときは、ウェットシートなどで拭いてから掃除機をかけると、ホコリもカビも舞いにくい。使い捨てウェットシートがおすすめだが、雑巾を使う場合は、きれいに洗って、しっかり乾燥させること。

新暮らしノート

毎日の生活で役に立つ情報や覚えておきたい暮らしの知恵などを紹介します。

⊙ 梅雨の季節にお家のカビ対策を！

梅雨の季節がやってくると、バスルームや洗面所にいつの間にか出現する“カビ”。増殖してしまうと、取り除くのが大変に……。日ごろの効果的な対策で、カビの繁殖を抑え、快適に暮らしましょう。



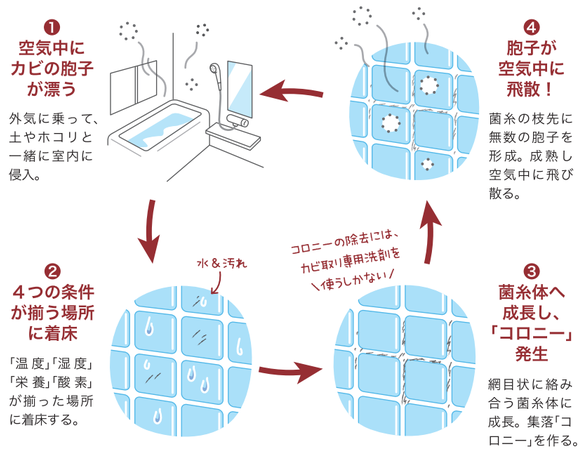
カビは微生物の一種 条件が揃えばどんどん繁殖

カビは、「真菌」と呼ばれる微生物の一種で、酵母やキノコの仲間です。もともとは土の中に生息していますが、胞子が外気に乗って家の中に侵入し、生育に適した場所に落ちると、すぐに発芽し成長します。菌糸を伸ばして菌糸体に成長すると、菌の集落「コロニー」を作ります。肉眼で見えるのは、この状態のものです。生育に適しているのは、温度、湿度、栄養、酸素の４つの条件が揃った場所です。カビが好む温度は15～30℃で、20℃を越えると繁殖が激しくなり、28℃で最も盛んになります。また、湿度は70～95％で、80％を越えると繁殖が激しくなります。食物繊維のほか、ホコリや塗料、接着剤などまで栄養源となるため、放置するとどんどん繁殖します。

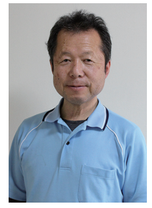
結露しやすい場所を好む 換気や除湿で湿度の調整を

カビが好きな場所は、「日常的に水分がある」「結露ができやすい」ところです。とくに、湯船から大量の水蒸気が発生し、石けんかすなどの栄養源も豊富なバスルームは、繁殖に最適です。また、結露が起きやすい窓ガラスや北側の壁、空気がよどみ湿気がたまりやすい押し入れやクローゼット、家具の裏なども要注意。手軽に実行しやすいカビ対策は、換気や除湿による「湿度の調整」です。ただし、梅雨時や蒸し暑い夏は、外の方が、屋内よりも湿度が高いことも多く、換気より空調機器を使って除湿する方が効果的です。胞子を大量に吸い込むと、ぜんそくやアレルギー性鼻炎などを引き起こす心配も。健康を守るためにも、日ごろから力ビ対策を心がけましょう。

◆カビのライフサイクル



★教えてくれた人

チューリップクリーンサービス
代表取締役 **川原　悟**さん
富山市小杉625-1　✆076-428-1581
営 8:00～18:00(時間外作業対応可)
休 無休　HP www.tulip-cs.com/profile.html

「できないのに『できる』と、いい加減なことは言わない」をモットーに、汚れの原因、悩みの理由をしっかり説明する熱心な同社。24年の実績に基づくアドバイスは的確。